



心に働きかける組織再生プログラム フィンランド式リレーティング研修会

二意会総会・東京会場・大阪会場

北欧フィンランドで精神科医と社会心理学者の研究によって生まれた教育プログラム「フィンランド式リレーティング」研修会を同国で勉強され、日本人として初めてリレーティングコーチ資格を取得されたEAP総研社長 川西由美子先生を講師にお迎えし東京と大阪の三会場で開催しました。



川西由美子先生

1990年代前半にフィンランドの精神科医ベン・ファーマン氏と社会心理学者タピニ・アホラ氏によって開発された組織のチームワーク力を高め、ひとりひとりのやる気を上げる12ステップのプログラムです。

メンバーの個性や能力を活かし、逆境をチャンスに変えられるプログラムとしてフィンランドをはじめ、ヨーロッパを中心に評判を集め、世界16カ国に広がっています。

問題の原因や責任の追及にばかり傾く問題志向から、前向きな解決志向へ組織の意識改革を進めることにより、人材の再活性化やチームワークの強化を促します。

この教育プログラムは携帯電話メジャー ノキアの人事育成で活用され、企業成長の原動力として知られるようになりました。

最近では厚労省の依頼で沖縄の労働局でも2年連続で採り上げられ、人事労務辞典にも掲載されています。

二意会第29回通常総会後の特別企画として開催された川西先生の「リレーティング研修会」に参加され、それぞれに体感された20名の社長さんクラスから大変評判が良かったため、会員委員会（北井正之委員長）ではこの研修会を今年度の重点施策の一つである「人材育成」の一環として東京、大阪で実施することにしました。



うまく上がりました!! (二意会総会)

東京会場は7月12日 港区・芝の機械振興会館で行われました。

研修効果上、定員30名の研修者とオブザーバー15名で開催され、EAP総研の山越薫認定心理士をアシスタントに北井正之会員委員会委員長(北井産業社長)の司会で始めました。



司会の
北井委員長(東京)

長瀬幸泰工業
会会長(ナガセイ
ンテグレックス社
長)から「大変な閉
塞感の中で、チー
ムとは何か、チー
ムを再構築するに
はしたら良いの
かを勉強させて
もらいますが、参
加されている皆様もそれぞれの企業に帰られて本日学んだ事を活かして下さい」と開会の挨拶がありました。



開会挨拶 長瀬会長(東京)



他チームの出来栄をチェック?(東京)



熱心に聴講されたオブザーバーの方々(東京)

大阪会場は7月14日 新大阪駅近くの大
阪コロナホテルでEAP総研の荒木志穂コ
ンサルタントをアシスタントに開催されま
した。

15名の研修者と5名のオブザーバーが出席しました。高橋洋二専務理事の司会で始まり、錦織 隆前副会長(日進製作所社長)が「数年前にフィンランドに行きましたが、税金が高く、福祉は充実しており、教育水準も高い人が多いと聞きました。そんな国で何故リレーミーティングしなければならないのかいろいろ考えてみましたので今日の勉強会を

大変楽しみにしています」と開会の挨拶をされました。



開会の挨拶 錦織前副会長(大阪)

研修の初めに、川西先生より「物を作る機械において、“すべり摩擦”と“転がり摩擦”があります。すべり摩擦を起こすためには大きな力が必要です。それに比べて転がり摩擦を起こすための力は小さいですが、はじめに物を押し出すための力が必要となります。企業が改革や転換をするための“転がり摩擦”の力が、リレーリングに相当するのです。」とお話がありました。



“転がり摩擦”の大切さをアピール(大阪)

6~8名を一組としてチームを編成し、始めにリレーリングについて基本的な知識のレクチャーを受けた後、フラフープを使ったチームワーク体感を組別に行いました。

チーム全員で目をつむって、リーダーの指示のもと、一本のフラフープを指で一緒に上げたり下げたり、移動したりしました。また、目をつむっている組織の構成員は、目を開けて「もしも話せたらリーダーに何を聞きたいか」と質問をすると、「今の自分は全体のどこまで来ているのか」、「このやり方で良いのか」、「みんなとのバランスはどうか」などのお声が上がり、チームとして



共同作業がうまくいきました(東京)

話をすることの大切さも同時に学習しました。さらに、的確な指示がないと不安やパニックになり、何とかしようと勝手に動くことで状況が悪化してしまうことも体感し、これを防ぐ役目を持つのがルールであることも学習しました。

そこで得られた感覚と心情を日常の仕事ぶりと比較して、いろいろな事を感じてもらい、まったく新しいチーム活性化手法を体感してもらうのが狙いです。今迄「自分のやっていたリーダーシップは?」と自問自答する事によって何かを会得されたのではないのでしょうか。

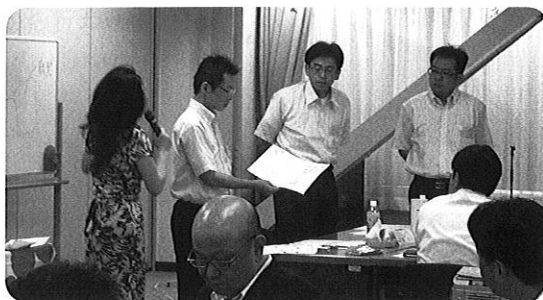


なかなか難しいですね(大阪)



グループワークの討議中(東京)

次に川西先生のリードによって、それぞれのチーム別に組織の抱える問題点についてグループワークを行い、効果的な意見の出やすい環境の作り方を会得し、代表者が発表しました。



チーム代表者によるグループワークの発表(東京)



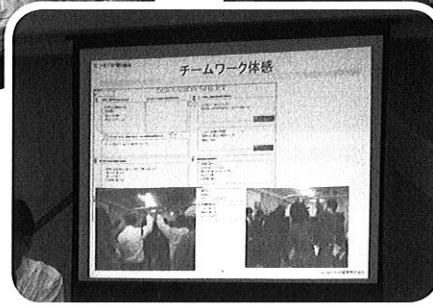
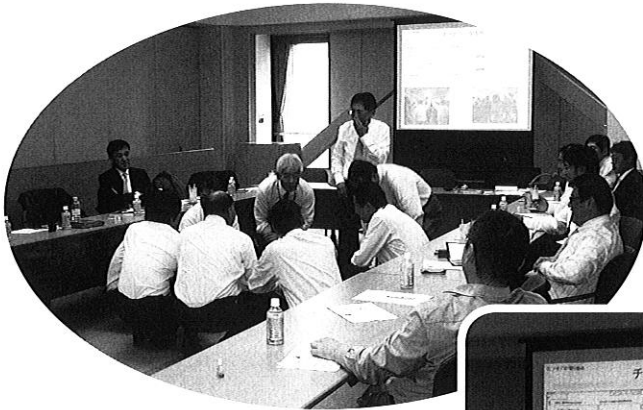
問題点の確認作業(大阪)



何回目かでやっとうまく出来ました(二意会総会)



二意会の社長さん連中も熱心に勉強しました(二意会総会)



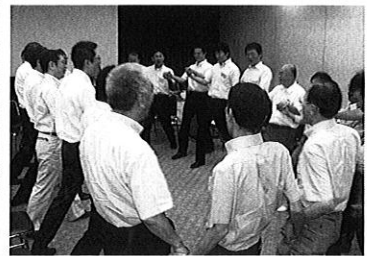
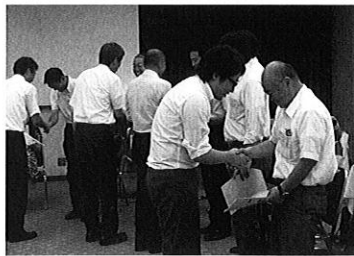
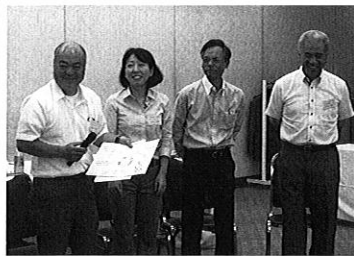
最新心理学である解決志向の理論を教え
てもらい、リレーリングペーパーのフロー
に従って問題を解決するための糸口を見つ
けました。

そうすると「組織としての目標」や「明日
から個人ができる行動」がはっきりしてき
ます。

そして、行動レベルに落とし込まれた目
標を発表します。

人前で発表する事で責任と実施の重要性
を再確認する事ができました。

また、周囲の人が考えている事が分かり、
チームの一員である事を意識し、一致団結
する環境が生まれてきました。



大阪会場でのグループワーク討議と発表と拳固め

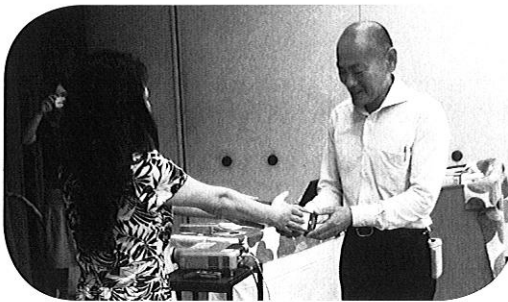
最後にそれぞれの会場で表彰式が川西先生から行われました。
多くの方が表彰されましたが、その内、一部の方を紹介します。

東京会場での最優秀選手は北原正一君(東洋精機工業取締役業務部長)が選ばれました。

選考理由は始めにチームで口火を切り、良いアイデアを出した勇気を評価されました。



北原正一君



宮川治郎君

大阪会場では勇気のある代表者として宮川治郎君(宮川工業社長)が選ばれました。

選考理由は欠席した清水統括部長に代わってオブザーバーシートから研修シートへ率先して移られた勇気に対して評価されたものです。

同じく勇気のある代表者として平野卓君(日進製作所取締役総務部長)も選ばれました。大阪会場ではトップバッターとしてフラフープのワーク体感のチームリーダーに名乗りを上げ、チームをまとめられた前向きな姿勢が評価されました。



平野卓君

ヤル気賞は山田一平君(キラ・コーポレーション執行役員営業部長)に輝きました。

「皆さん全員にヤル気を感じましたが、その中でも一番強くヒシヒシと感じたのは山田君」との事でした。



山田一平君



吉川智貴氏

二意会研修会で謝辞を述べられた幹事の吉川智貴氏(吉川鐵工副社長)は講師の川西先生とアシスタントの荒木さんにお礼を述べられた後「日頃、社員や上の者に対して物を言うにしても何か表現が足りないなと感じていました。発生した問題に対して解決策をどう取ったら良いのか、チームに対する接し方をどうしたら良いのか分からない面もあったのですが、フラフープを使った体感を通してなんとなく分かったような気がします。会社に帰って是非実践したいと思います」と研修会の成果を喜んでおられました。

東京会場での謝辞は荒井裕一郎氏(曙機械工業専務)が行われ「講師の美しさにやられたなと思いましたが、考え方として複雑ではないので、自分の中で整理出来ればいろんな事に使えるなと実感しました」また、「いろいろな部署の責任者が参加していたのである程度の問題点は共有化出来た。是非、社内に持ち帰り上手く使ってみたい」と満足な様子で意欲的でした。



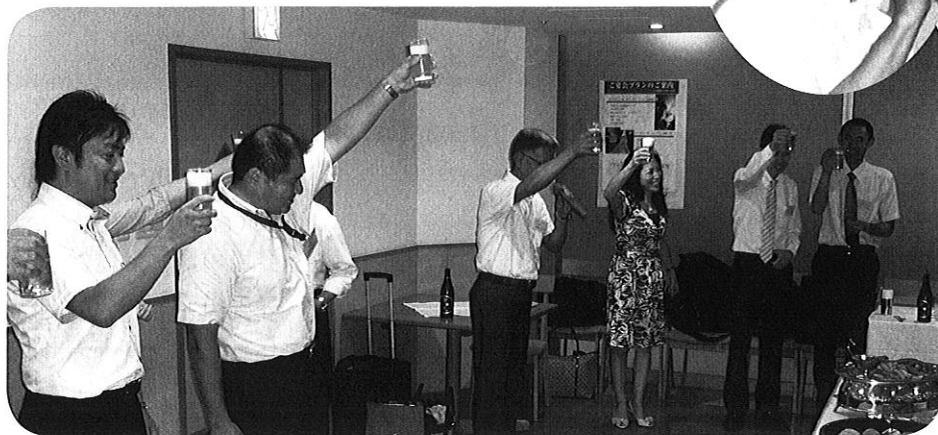
荒井裕一郎氏



乾 英二氏

大阪会場での謝辞は乾 英二氏(キラ・コーポレーション専務)が前に出られ、川西先生とアシスタントの荒木さんにお礼を述べられ「この忙しい時期に午後1時から5時までみっちりやっていただきました皆様にも本当にご苦労さまでしたと申し上げます」と出席者の皆様にも労をねぎらわれた後「ワークのフローの部分は実際の仕事の面で参考になったと思いますのでここで学んだ事を会社に持ち帰って頑張っていたきたいと思います」と謝辞を述べられました。

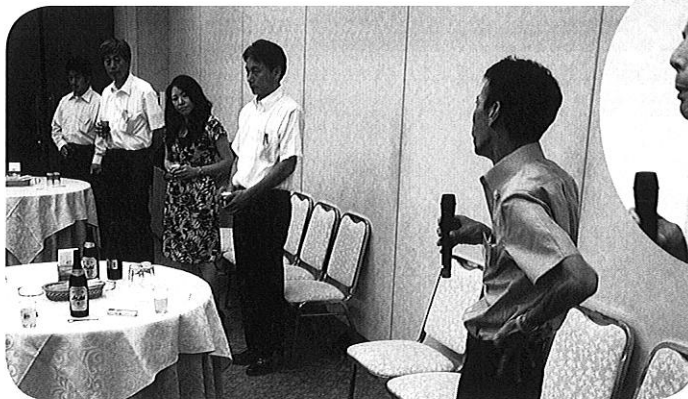
研修会終了後、同所で引続き懇親会を行いました。東京会場の機械振興会館では稲葉弘幸副会長（北村製作所社長）が「この研修会はフラフープの作業が印象的なのですが、フラフープの作業は、4月21日に社長達が行ったものより今日の方々が非常に上手かったなと思いました」とマイクも要らないようないつもの剛声と笑顔で楽しく感想をお話された後、ドイツ語で「イエッツ ゲッツ（よしやろう!!）」と元気良く乾杯の掛け声を挙げられました。（ドイツでリレー研修は「イエッツ ゲッツ」と訳され、大反響を呼んでいます。）



稲葉副会長のご発声で乾杯!! (東京)



大阪会場の大阪コロナホテルでの懇親会では吉川雅順氏（吉川鐵工社長）が「本日は長時間の研修、有難うございました。今迄の研修で『ころ』という言葉が使われた研修はなかったと思います。これは大切な事だと思いました。常日頃、目標・目的を明確にしなければならないとは思いますが、抜けている時が往々にしてありますので再認識しました。本日の研修の成果をそれぞれの会社に持ち帰っていただき会社の繁栄に寄与させて下さい」と乾杯の音頭を採られました。



吉川雅順氏の挨拶と乾杯のご発声 (大阪)



東京会場の中締めは市川敏彦氏(ハイデンハイン社長)が「当社から本日は3名が参加していますので、劇的に会社が変わるのではないかと期待しています」と嬉しそうに笑顔で話され「本日参加者を出しておられる会社も間違いなく発展すると思います」期待と爆笑の中、一本締めで楽しくお開きとなりました。



市川敏彦氏の中締め(東京)



宮川治郎氏の中締め(大阪)

大阪会場での中締めは宮川治郎氏(宮川工業社長)が「『セミナー会場の扉には魔法がかかっている。扉を出してしまうと、今、教えて頂いたこと全てを忘れてしまう』と言われていますが、今回はいろんなファームーション、皆様の前で宣言したり、全員の皆様と握手をしたりと特に頭にインプットされていますので大丈夫です。まず一歩、我々は役割を認識して、明日から再出発出来ると思いますので、それぞれにお気づきの事を実践出来るように頑張ってください」と元気良く、威勢良く前に向かってこれからの道を切り開く一本締めで披露されました。

会員委員会では各会場で受講された人達を対象に今回学んだ事が実際の仕事に活かされているのか、実践した場合の問題点はなかったのか等を主体とした3ヶ月後のフォローアップ研修を10月に予定しています。是非ご参加ください。

川西先生の後日談

リレーミーティングのセミナーは、人集め、チーム分けなどの下準備に手間がかかります。しかし、どのチームに働きかけようか、どんなチーム編成が効果的かなど、講師とともに組織内を見ることにより、この時点からリ・チーム（もう一度組織を再生させること）が始まっています。リレーミーティングのグループワークには参加していなかった事務局こそ、その組織の一員であり、重要な役割をもたらします。日本小型工作機械工業会は事務局、会員企業が一体となり、まさに業界の発展のために共に汗を流している組織だと感じました。

毎日、問題は同じことから生じています。しかし、日常の業務の忙しさから、その問題について考えたり検討する時間、段取りを組む時間を取ることが難しいというのが現状です。リレーミーティングでは、これらを考える時間を作ります。セミナーの必要性は、ここにあると考えます。

チームで行動することは、本来は日本人が得意としていたことです。ものづくりの現場においても、お客様のニーズにチームがどう答えられるか、お客様と一体となり日々考えるということをしてきたと思います。フィンランドからの輸入ではありますが、リレーミーティング研修は元々日本人の心に芽生えているチームスピリットを、心理学の背景を押さえ、甦らせたものだと思います。

心がノックされ、やる気が上がり、チームで目標を達成するための行動を共にすることが出来れば、日本小型工作機械工業会の会員様の発展は間違いないと確信いたします。

●フィンランド式リレーミーティング研修会参加者（敬称略・順不同）

東京会場：

荒井裕一郎・荒井伸浩・辻本大介・板倉伸介・大野 隆・赤坂博史・中島敏夫（曙機械工業）、原 慎一郎・佐藤 治・宮坂 悟（エグロ）、宮澤正憲・小野達郎（古川精機製作所）、小池達夫・河合保典・加藤信宏・上蘭順一（平和テクニカ）、北井正之・北井一巳（北井産業）、稲葉弘幸・齊藤浩文・丹野茂樹（北村製作所）、橋本和樹（近藤製作所）、清水大介・小林二郎・有賀純一郎（牧野フライス精機）、伊藤隆志・佐藤豊樹・北沢健一（ミカドテクノス）、長瀬幸泰・長尾昌浩（ナガセインテグレックス）、市川利之・工藤剛史・角田耕一（進興製作所）、小川正男・北原正一（東洋精機工業）、石井孝治（東京タッピングマシン製作所）、吉川智貴（吉川鐵工）、市川敏彦・岡田早苗・古山一善・山口恵司・佐藤健治（ハイデンハイン）、塚越一宏・宗野幸弘・曾根紀男（三木プーリ）

大阪会場：

春山登喜雄・中村貴典（曙機械工業）、網島広顕（アルプスツール）、乾 英二・山田一平（キラ・コーポレーション）、河井厚志（近藤製作所）、橋詰和夫（メクトロン）、野口典孝・岩下孝博（ナガセインテグレックス）、錦織 隆・平野 卓（日進製作所）、山崎由清（高松機械工業）、吉川雅順・見市光男・森田敏充・越前谷睦・中山 健（吉川鐵工）、名和芳治（和井田製作所）、木寅志保（関西超硬合金）、宮川治郎（宮川工業）

EAP総研株式会社

代表取締役社長

川西由美子プロフィール



スタンフォードVA病院(退役軍人病院)内オールドアダルトファミリーセンター、UCLA内プレストキャンサーセンター、ヘルシンキブリーフセラピーインスティテュートでの研修実績を基に、医療機関や保険会社との積極的な提携を行う一方、ストレス対策に関するテレビ(NHK、フジテレビ、TBS、テレビ東京(ワールドビジネスサテライト)、SkyパーフェクトTVなど)・ラジオ(FM東京、文化放送、TBSラジオ、短波放送、USENブロードバンドi-26Ch、ビジネス実務相談パーソナリティーなど)・雑誌(an・an、美人計画、日経ヘルス、ターザン、日経産業新聞など)のコーディネートをはじめ、自身でも企業・病院内の『ココロの健康管理』に関するコンサルテーションを行っている。

2008年には、フィンランド式教育『キッズスキル』の教育提供機関となり(フィンランドブリーフセラピーインスティテュート認定)、子育て支援活動を積極的に行っている。

現在、小児がんの子どものための活動、NPOゴールドリボンネットワーク理事も行き、幅広い分野でのメンタルヘルスケアを実践している。

【著書】

- 2002年 高齢者のための心理療法入門
- 2003年 ココロノマド
- 2003年 お年寄りのこころ学
- 2004年 PMSを知っていますか?
- 2004年 ココロを癒せば会社は伸びる
- 2008年 キッズスキル
- 2009年 職場のメンタルヘルス対策の実務と法
- 2009年 フィンランド式キッズスキル入門
- 2010年 強いチームをつくる技術

後記

- 東日本大震災が発生してから半年を迎えようとしています。
- 改めて被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。
- 松本復興相が就任9日目で辞任しました。
- 辞任は東日本大震災復興のため、岩手、宮城両県知事に会った際「知恵を出せ。知恵を出さない奴は助けない」とか長幼の序を叱っているテレビ映像の発言や態度に被災地や全国各地の人々からの反発が大きくなった結果でした。
- テレビニュースを見ていると確かに松本復興相の上から目線での物の言い方や言葉遣いは誰もが適切な態度とは思えなく、私も義憤を感じました。
- しかし、感情に走らずに復興相の発言内容を良く考えてみると最もな事を言っています。
- 「復興のためにみんなで知恵を出そう。そして、少しでも多くの被災者に喜んでもらえる復興計画を作ろう」と言う事ではないでしょうか。
- また、村井宮城県知事が訪問した大臣より遅れて入室したのは確かにエチケットに反する面もあります。約束の時間に遅れた、遅れないの問題ではなく気持ちの問題です。
- 当工業会では北欧フィンランドで精神科医と社会心理学者の研究によって生まれた教育プログラム「フィンランド式リチーミング」の研修会を4月に東京で、7月に東京と大阪で開催し、多くの経営幹部の方が熱心に勉強されています。
- 松本復興相もこの研修会に出席しておられれば辞任される事はなかったと思います。
- 同じ内容の事を言うのでも言い方や相手に対する気持、温かい思いやりのある態度がチームのリーダーとしてチームメートを束ねられるかバラバラにするか。その気にさせるか、怒らせてしまうか。
- リチーミング研修会ではチームの弱点の克服に向け、チームが一体となって取り組み、その潜在力を引き出す事の大切さを気付かせてくれます。
- 政治家の仕事も私たちの仕事もあるいは家庭でも同じような面がありますね。



木槿(むくげ)

工業会だより

No.147

平成23年9月1日

日本小型工作機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号
機械振興会館 506号室
発行責任者 高橋洋二

TEL 03 (3431) 5054 FAX 03 (3434) 6955

URL : <http://www.jbma.jp>

E-mail : info@jbma.jp

制作・印刷：株式会社産業企画